

批判表現の日米語対照研究—映画における表現分析—

異文化コミュニケーションゼミナール 1215152 深山 靖弘

1. 研究動機・研究目的

本研究の目的は、日本語と英語の映画を研究対象とし、相手を批判する際の言語表現と非言語表現を比較・検討した。また、批判された直後に受け入れるか、言い返すかも検討した。さらに、批判する際に相手を侮辱する表現が、どのくらいの頻度で使用されているのかも検討した。

本研究では批判を「人や物事の誤った箇所や悪い部分を論理的に指摘し、改善を求めること」と定義した。

2. 研究方法

本研究では、日本語と英語の映画を用い、批判表現における日本と米国の文化的差を比較・分析した。分析するにあたって、年代的背景が影響しないように、日米それぞれ2004年以降に公開された6作品の映画を対象とした。また、日本語の映画は日本人の監督が日本国内で撮影したのを用い、英語の映画は米国人の監督が米国で撮影したのを用いた。

3. 主な結果と考察

日本語と英語でそれぞれ6作品ずつの映画を対象に分析を行ってきたが、日米語で比較し、米国の映画が日本の映画より約1.7多く批判表現が用いられていた。このことから日本人は口論の際に相手を批判することなく自分の意見を伝えるといったコミュニケーションの取り方が多いのではないかと考えた。一方、アメリカ人は口論の際は最初に相手を批判してから、自分の意見を伝えるコミュニケーションの取り方が多いと考えた。

日米の批判表現における非言語表現の頻度の分析結果からは、文化的な相違点を強く感じられる結果が出たと考える。批判表現が用いられた回数を比較すると、日本が22回、米国の159回と、米国が日本の7倍以上多かった。

日米語における、批判された側の対応の割合の分析では、批判された側が言い返すか、受け入れるか、どちらの割合が多いかを観察した。本研究の結果、日米語のどちらも言い返す割合と、受け入れる割合がほぼ同じであった。そのことから、批判された側の対応として文化的相違は観察されないと考えた。

日米語の映画における批判表現の発話例の結果からは文化的相違が観察された。日本人が批判表現を用いるのは、口論の際に用いるより、普段の何気ない会話の中で用いることが多かった。このことから、日本人にとっての批判表現とは、必ずしも相手に自分の意見を伝える為でなく、軽い感覚で用いられることも多いのではないかと考える。一方、アメリカ人の場合は、口論の際には、自分の意見をはっきり伝えるために、初めに相手の意見

や行動を批判することが多いと考えられた。

日米語の映画の両方に相手を批判する際に侮辱する言語が用いられていた。日本人は自分よりも立場が上の人に対しては侮辱する言語表現は用いない場合が多かった。それに対して米国の映画では、生徒が教師に対して侮辱する言語表現で批判することが何度か観察された。このことから、日本とアメリカでは上下関係に対する文化的価値観が異なっていると考えた。日本人は、上下関係を重んじるのに対して、アメリカ人は日本人ほど上下関係には厳しくなく、自分よりも目上の人間に対しても自分の意思をはっきりと表現することができるのではないかと考えた。

4. 結論

本研究では、日米語の批判表現の使用頻度・批判表現における非言語表現の頻度・批判表現の発話例の研究結果から、日米での文化的な相違が観察された。アメリカ人は、相手を批判する際に、自分の意見を立場など気にせず、思ったことを明確に伝えていた。また、伝える際には、言語的な表現だけでなく、非言語表現を用いて、自身の感情をより相手に伝わりやすくしていた。それに対して日本人は、相手を批判することなく自分の意見を伝えていた。

本研究の結果から、批判表現の使用にあたって、日本とアメリカでの生活環境や、教育環境などといった文化的な相違が大きく影響していると考えられた。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究で日米語の映画を対象とした理由としては、昔から映画を観ることが大好きであり、暇な時間があれば観ていたからである。様々な映画を観てきた私としては、本研究のデータ集めに、今まで観てきた映画から適した作品を選択し、より良い論文が作成できるのではないかと考えたからであった。

研究のテーマとして、「批判表現」に焦点を当てた理由は、映画を観る中で、批判の際に日本人とアメリカ人では表現の仕方が明らかに違っていると感じ、より深く分析したいと考えたからである。また、2年の夏に1か月間アメリカのコロラド州に英語研修として訪れた際に、表現の仕方の違いを実感し、興味を持ったことも理由の1つであった。

今後ますます国際化が進み、外国人との触れ合いが増していくと思う。そこで本研究をもとに、相手の国の文化を深く理解し、より良くコミュニケーションをとっていきたいと考えた。